

## ☆花葉会海外園芸事情調査報告

# ロシア「バイカル湖」の花の観察紀行

佐 藤 裕 子

今回の花葉会海外園芸事情調査は、私が初めて参加した2012年のオランダ・フェンローのフロリアードから数えて6回目になりました。私は植物の基本を学ぶため、花関係の仕事を辞め、千葉大学園芸学部園芸別科に入学しました。修了して再び花関係の仕事をしながら、花葉会の海外視察旅行に参加することを楽しみに日々過ごしています。

今回のバイカル湖は、去年5月にイルクーツクまでの直行便が開設されたことにより、夏場は成田から乗り換えなしで行くことができ、時差も1時間、身体の負担も少ないフライトでした。バイカル湖横断の定期船はないためチャーターボートで横断し、バイカル湖南半分を回りながら植物を観察するツアーでした。

日本からは添乗員の青木泰介雄さん、現地では日本語通訳のオリガさん、イルクーツク大学のドクター・クリベンコさんが同行しました。



バイカル湖地図

2019.6.30(日)

16:15成田空港集合 参加者22名。搭乗手続きを済ませ、荷物を預けてから集会室で結団式。自己紹介を行い、19:30 S7シベリア航空エアバスでイルクーツクに向けて出発しました。

現地時間23:55イルクーツクに到着。バスでホテルに入りました。

2019.7.1(月)

イルクーツク29°C。大型バスにてサルータを経て、本日宿泊するオルホン島へ出発、途中植物を見つけては停まって森の中へ入り、植物を見つけてはまた移動するいつものスタイルで、バイカル湖西岸の植物観察は始まりました。幹線道路沿いでは *Geranium transbaicalicum* や *Trollius asiaticus*、*Clematis alpina* subsp. *sibirica* などが観察できました。

ロシアの南西部に位置するバイカル湖は、世界自然遺産であり、湖といつても広大で周囲2,100km、最深部1,600m以上あります。イルクーツクからサルータまでの道は内陸を通る道路でした。幹線道路沿いにドライブインのような建物は無く、バスが停まるたびに降車して、タイガ（針葉樹林）の森に入って植物を見て写真を撮ることを繰り返しました。木漏れ日の入る森では、*Lilium martagon* var. *pilosiusculum* や *Rosa majalis* などが見られました。また森に入る前にマダニよけのロシア製スプレーをかけてもらい、乗車するときはマダニが身体についていないか背中まで見て確認します。

サルータまでの場所で、チョウセンキバナツモリソウ (*Cypripedium guttatum*) が咲いている所に案内されました。花の終わっている株もありましたが、撮影した個体は開花の状態が最適でした。また *Dactylorhiza fuchsii* も見つけることが出来ました。



*Cypripedium guttatum*

途中ジープのような貸し切り車4台+荷物車1台に乗り換え、無舗装道路や砂地や傾斜地も恐れることなく突き進みました。砂地では *Convolvulus ammannii*

や、*Oxytropis lanata* などのマメ科の植物が数多く見られ、*Thymus baicalensis* が満開だったり、*Aster alpinus* var. *serpentimontanus* が咲いていたりしました。*Orostachys spinosa* などの多肉植物もありました。

悪路に揺られながらも睡魔には勝てずに居眠りをして、運転手には驚かれましたが、去年のインド旅行の延々と続くロデオ状態のジープ移動と比べれば、バイカル湖の道の方がまだましという感じでした。

フェリー埠頭に着き、船に乗り込んで対岸に見えるオリホン島まで約20分。島ではシャーマン断崖を訪ねました。ここはブリヤート人のシャーマン教の聖地、パワースポットであり景勝地です。ここのシベリア松も有名らしくオリガさんの名刺にも使われていました。



シャーマン断崖

2019.7.2(火)

この日はバイカル湖横断の日。東岸のバイカルスカヤにチャーター船で渡りました。天気は快晴、風もなく穏やか。添乗員の青木さんによると一週間前に別のツアーの人たちが渡った時は、風が強く波が荒れていて時間も相当かかったので、今日はついていますよということでした。



マメ科 *Oxytropis microphylla*

早朝チャーター船が着くという場所に向けて出発。やはり未舗装の道を進み、バイカル湖の湖岸の砂丘の植物を見て回りました。*Astragalus agrestis* や*Astragalus lupulinus* など至る所で多くのマメ科の植物を目りました。それは案内してくれたドクター

クリベンコさんが、マメ科の植物に詳しかったというのもあると思います。的確にこの時期あそこには何が開花している、どこのどの場所には何があるという情報を把握していて、その情報に沿って動いてくれたので、空振りが少なかったのだと思います。

砂地に生えている植物は、根が5mも伸びていると説明を受けました。マメ科、キク科、中でもキンポウゲ科のデルフィニウムが一株あったのには感動しました。というのは、大学での研究がデルフィニウムだったので、このバイカル湖の旅でデルフィニウムに出会えたことが嬉しかったのです。この旅でデルフィニウムに出会ったのはもう一度だけ、今度は小高い丘の斜面に一株だけあり、両株とも水はけのよい日の当たる斜面という条件が一致していました。



キンポウゲ科 *Delphinium grandiflorum*

チャーター船の待つ浜に着くと、浅くて棧橋には船をつけることが出来ないので、小舟で乗り移るか、直接乗れる高台から乗り移るかと協議され、結局高台まで車で移動することになりました。高台といつても斜面の草地、それも急勾配です。車ごと転げ落ちそうになりながら、直接船が着ける崖のような岩場に到着しました。船の先端に付いた梯子のようなものを伝って乗船です。2隻の船に分乗し、私は後の船に乗りました。



チャーター船

先に乗った人たちの船は船室がなく、デッキの上でみな寒さに震えていたそうです。後の船に乗った私たちは最初デッキにいたのですが、時間が経つと寒さを感じた人たちが船室に集まり、船長から手作りのウォッカを買って飲みながら暖を取っていました。ま

た魚に詳しい方が船長に、「オームリ」の素揚げとタタキを注文してくれたので、ご相伴にあずかりながらウォッカを勧められ、身体の中から暖を取ることができました。オームリとはバイカル湖に比較的多く生息しているサケ科コレゴヌス属の白身魚で、美味珍味とされ、バイカル湖の最も重要な水産種の一つだそうで、淡白な味で素揚げもタタキも生臭くなく、美味しい魚でした。お土産に私も船長からペットボトルに入ったウォッカを買いました。

## 2019.7.3(水)

バイカルスカヤからウラン・ウデへ。3台のバスと荷物車1台でバイカル湖東岸に流れ込む川の近くの植物を見て回りました。バイカル湖には300以上の川が流れ込んでおり、流れ出る川はアンガラ川だけだそうです。

川のはとりは蚊が多く、人が植物を探して歩きまわるとその刺激で一斉に蚊が湧いてきます。私は帽子に付ける虫よけネットで、顔に来る蚊の襲来は阻止できましたが、腕を刺されて痛みを感じました。日本の蚊より大きいけれど痒くはなりませんでした。しっかり血を吸われていなかったからかもしれません。

湿地や湿った所では、ハスカップや*Primula nutans*、*Paris verticillata*などがありました。湿った所にはその湿り気の程度で、地生ランを見ることが出来ました。*Dactylorhiza*だけでも *Dactylorhiza incarnata*、*Dactylorhiza salina*、*Dactylorhiza sibirica*がありました。林の中の木陰では *Pyrola incarnata*などの、ツツジ科イチヤクソウ属などがみられました。

ウラン・ウデの町はとても大きくブリヤート共和国の中心地で、軍事産業で栄えている町だそうです。この日の午後はチベット仏教の寺院とブリヤート民族歴史博物館を見学しました。

ウラン・ウデの宿泊先は素晴らしいホテルで、夕食時の民族踊りや馬頭琴の演奏、お皿を使った踊りなどショーライブを楽しみました。食事も申し分なく美味しかったですし、特にチョコレートケーキのような、ウワミズザクラの粉を使ったケーキは興味深く、ロシア版クックパッドの様なサイトに載っていました。スーパーで買ったウワミズザクラの粉をいただくことが出来たので作ってみたいと思います。

## 2019.7.4(木)

少し内陸に入ったウラン・ウデからバイカル湖沿いのタンコイへ、引き続きバイカル湖東岸をシベリア鉄

道に沿って進みました。草原もあり、湿地、砂地、それぞれの場所でそこで生息する植物を見ることが出来ました。



ヤナギランが咲き乱れる草原を走るシベリア鉄道

シベリア鉄道はロシアの重要な交通手段で、多くの物資を一度にたくさん送ることができる最も重要な貨物列車で80～100台を連結して走っています。そのため、一度踏切が閉まるとき延々と貨物列車が行き過ぎるの待たなければいけません。また、踏切の構造には驚きました。絶対に踏切で車が列車の運行を妨げないように、地面に設置された鉄の板が跳ね上がるようになっているのです。どんなに人里離れたところでも必ず鉄の板が跳ね上がって車の侵入を阻止する構造には、極東の交通シベリア鉄道の重要性をいかに政府が重んじているかを感じました。

草原や高原にたくさん咲いているヤナギランのお茶が市場で売られていました。そのまま植物体を切って乾燥させたハーブティーと発酵させたハーブティーの二種類がありましたが、「発酵させている方が美味しいですよ」というオリガさんのアドバイスをいただき、そちらを買ってきました。味は野草茶という感じがして身体に良い気がしました。

タンコイは数軒の家が建つ集落といった感じで、ホテルに入る前に森林や草原、湿地などがある遊歩道のあるエリアを散策しました。森林には雪で曲がった木々が多くあり、独特の景観を造っていました。

タンコイのホテルは一軒宿で、部屋はドアの開け閉めがうまくいかず入れなくて、通りかかったツアーの人に何度も助けていただきました。他の方は手違いもあり、夫婦別々の部屋になったりとちょっとしたトラブルもあったようです。

## 2019.7.5(金)

タンコイからイルクーツクへ。やはりシベリア鉄道とバイカル湖沿いをイルクーツクに向かってバス2台で植物を探しながら進みました。*Nymphaea candida*が咲いていた池では、広範囲にスイレンが繁茂し、エ

ンデミックプランツのこのスイレンは、夜に花が閉じないのだそうです。またこの辺りではホティアツモリソウが盛りか、もしくは終わっているかの微妙なところと説明を受け、バスがぬかるんで入れない場所は林を歩いて見に行きました。



満開のホティアツモリソウ *Cypripedium macranthos* var. *macranthos*

この日の昼食の話に触れておくと、前夜泊まったホテルが用意してくれたお弁当がお昼ご飯なのですが、この日が一番素朴だったような気がします。ソバの実のゆでたものにキュウリ半分が乗っていて、他にはゆで卵とバナナでした。機内食もソバの実が出ていたけれど、ソバの実を食べた夜に救急車で運ばれた経験を持つ私は、警戒してはいたのですが、2口食べただけでしたが、即トイレ直行となつたのでした。蕎麦アレルギーではないのですが、身体が弱っているときの嫌な予感は的中するものです。言わずもがな、結構そのあとトイレが無いのが苦しかったです。

## 2019.7.6(土)

イルクーツクのホテルは初日に泊まった所で、後半の2泊もそのホテルなので勝手がわかり過ごしやすく、部屋のキーも二枚渡されたので同室の方と行動を別にすることもできました。フリーWi-FiでLINEが繋がるし、安心感のあるホテルでした。



固有種 *Lilium pumilum*

この旅で一番印象に残ったエンデミックプランツは、この *Lilium pumilum* (和名イトハユリ) でした。草丈20cmほどの可愛らしい赤いユリが、乾いた草原一面に咲いてる風景は、とても印象的でした。

この日はユリを見に行き、その後イルクーツク大学の植物園に行って、ハーブ園でロシア語の説明を受けました。ハスカップの種類の多さには驚きました。その後は地元の人が行く市場とキャビアを買いに大型スーパーに行きました。キャビアは大型スーパーならまがい物ではないらしいのですが、でも本物の値段にびっくり！やはりロシアの高級食材は現地でも高級品でした。治安もよく、一人で歩いて言葉が通じないながら買い物をすることもできました。

この日は最後の晚餐、ホテルの一角で料理が並び、ピロシキとボルシチが供されてロシアを満喫しました。通訳のオルガさんもお父さん手作りのハスカップのウォッカを持ってきててくれて、宴は盛り上がりました。少し残ったハスカップのウォッカを頂いて、船長のウォッカと飲み比べたことは言うまでもありません。

## 2019.7.7(日)

イルクーツクからの帰国日 雨。ロシアに降り立つてからは、毎日天候に恵まれていましたが、最終日の朝は小雨となり、空港に着くころまでばらついていました。空港では荷物検査、出国審査、手荷物検査が思いの他時間がかかりました。通訳のオリガさんが空港まで見送りに来てくださり、植物を熱心に学んで通訳をしてくれた姿勢に感銘を受けました。

12:40発 離陸して、成田空港に20分遅れで無事到着、日本に帰ってきました。

今回の旅は、ロシア・バイカル湖を巡る海外園芸事情調査でしたが、晴天が続いたことと熱心なドクター や通訳の方に恵まれて、乾いた草原、湿地、砂丘、森林と、多彩な環境の沢山の植物を効率よく見て回ることが出来ました。初日から植物のカラー写真付きの属名種小名リストをドクタークリベンコさんから頂き、それを見ながら説明を受けることが出来たのはとても良かったことです。

後日、団長の長岡さんから頂いたコメントによると、マメ科とキク科が多いように感じたそうで、一か所で見られる種類は少なめでしたが245種程度の植物を観察できたそうです。

私自身は1,700枚の写真を撮影することが出来ました。毎回参加して思うことですが、この花葉会の海外視察旅行は至れり尽くせりで、植物好きにはまた参加したくなる中毒性のある旅行だと思います。これも天候と時期を考えながら調整してくれる添乗員の青木さんのお陰です。次回も参加できるように健康に注意し、仕事も頑張って、また参加したいと思います。